

価値観の混沌を抜け出し、次世代の手本となるトップランナーたれ

神戸大学 飯塚敦

建築は住宅や建物などを整備する技術, 土木は道路や橋梁などを整備する技術. 一般にはそう思われているのだろう. 凝った意匠, 美しい建物に惹かれる. そんな建物を作る仕事をしたい, 他方では, 町々をつないで便利になる道路. 大規模な水資源ダム, 海峡トンネル, そんな文明の礎を築く仕事をしたい. 少々流行らなくなってきたイメージだが, 建築・土木を志そうとする高校生たちが思い描くところはこんな感じであろうか. しかし現在, 建築も土木も, そのような範疇を越えて, 広範囲な分野で活躍している, 模索している. 地球環境に対峙する分野と思われがちだが, 宇宙船地球号の持続的開発のカギを握る専門分野である. 宇宙船地球号の環境保全を守備範囲にしている専門分野でもある. 16世紀のデカルトは, 工学技術を「人類を自然の驚異から守る術」と定義した. この価値観に忠実に20世紀の工学の発展があった. 人類への自然の驚異は相変わらずだが, 一方で, 人類が自然への脅威となっていることに気づきだした. かけがえのない宇宙船地球号を守らねばならない, 同時に, 人口爆発, 食料危機を抱えながらも人類の健康的発展をはからねばならない. 価値観が混沌としてきた. 人類の生活・生存基盤を支えてきた土木, 建築の分野での新しい価値観の模索が一举に顕在化してきている. 他方, バイオ, 遺伝子など, 現在の花形分野では, 楽観主義が大手を振っている. 「新しい遺伝子の発見により命を救う新薬につながる」などなど, 遠くに見え隠れする矛盾はまだまだ先のこととして, 「人の命を救える」という善がすべての拠りどころとなっているように見える. 早晚, これら現在の花形分野も価値観の混沌に見舞われるであろう. その時, 参照されるのが, 一足先に価値観の転換に見舞われた土木, 建築分野の姿であろう. どのような姿になっているか, トップランナーとして, 新たな価値観を創生し, 手本となる理念の確立に成功していただきたいものである.